



## &lt;来週の資金需給予想とイベント予定&gt;

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
11/4 (月)				振替休日			欧: ユーロ圏製造業PMI (10月)
11/5 (火)	▲ 200	+ 19,300	+ 19,100	法人税・消費税・保険税繰上げ 普通交付税交付金 国庫短期証券発行・償還 (3M)	国債補完供給 + 7,700		米: 貿易収支 (9月) 米: 大統領選挙
11/6 (水)	+ 300	+ 6,000	+ 6,300				日: 日銀金融政策決定会合議事要旨 (9月19・20日分) 米: FOMC (1日目) 欧: ユーロ圏サービス業・総合PMI (10月)
11/7 (木)	+ 1,000	+ 300	+ 1,300				米: FOMC (2日目) 欧: ユーロ圏小売売上高 (9月)
11/8 (金)	+ 1,000	▲ 26,000	▲ 25,000	国債発行 (10年)			日: コール市場残高 (10月)

## &lt;インターバンク&gt;

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比500億円増加の548兆8,000億円から始まった。その後、国債買入オペやCP等買入オペ、国債償還等の要因により増減し、11月1日は546兆2,400億円 (速報) で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.228%から始まった。その後もビットサイドの調達意欲は底堅く、同金利は横ばい圏で推移した。

ターム物は1W~3W物0.23%~0.30%のレンジ、1M~3M物0.28%~0.35%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、国内では、11月6日に日銀金融政策決定会合議事要旨 (9月19・20日分) の公表、海外では11月5日に米大統領選挙、6・7日に米FOMCの開催などがある。

## [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.220 ~ 0.228
1M	0.28 ~ 0.45
2M	0.30 ~ 0.45
3M	0.30 ~ 0.45
6M	0.45 ~ 0.65

## &lt;レポ&gt;

足許GC取引は週初+0.20%~+0.24%のレンジで出会い、29日には+0.20%を下回る取引が見られた。取引が月末跨ぎとなる30日は一時+0.10%付近まで低下したが、引けには+0.19%付近まで上昇した。翌31日は+0.18%付近で出会い始め、以降は+0.23%~+0.24%の出会いが中心となった。

SC取引は2年460~466回債、5年149~173回債、10年350~376回債、20年180~190回債、30年65~84回債、40年13~17回債などに引合いが多く見られた。

## &lt;CP&gt;

今週の入札発行総額は約2兆4,000億円で、週間償還額の2兆2,000億円を上回った。発行残高は先週末時点の25兆2,054億円から、10月31日時点で24兆5,858億円に減少した。

発行市場は、石油製品、食料品、機械、電気業、その他金融業などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは銘柄や期間等によりばらつきが見られ、1M物から3M物で、0.25%から0.40%近辺での出会いとなった。先週に引き続き、1M物の内、発行量の少ない銘柄については、政策金利の0.25%に限りなく近い値で推移している。

来週の償還額は、6,800億円となっている。発行市場は、連休による営業日数の減少により、落ち着いたマーケットを予想する。発行レートは、1M物では0.25%近辺での出会い、12月の日銀決定会合を超える案件については、日銀の政策修正への警戒感から、レート水準を探る展開が見込まれるであろう。

CP等買入オペは10月28日に、予定通り4,000億円でオファーされた。結果は足切りレート0.345% (前回0.27%)、平均落札レート0.370% (同0.334%) と、足切りレート、平均落札レート共に、前回比で上昇し、過去最高のレートとなった。また、11月26日のCP等買入オペでは、2,000億円でのオファーが予定されている。

## &lt;TDB&gt;

11月1日の3M (1266回債) の入札は、最高落札利回り0.0150% (前回債0.0074%)、平均落札利回り0.0086% (前回債0.0011%) となった。

来週の入札は、11月7日に6M、11月8日に3Mが予定されている。

## [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.12 ~ 0.20
CP 3M	0.30 ~ 0.50